

第1学年国語科学習指導案

平成18年 9月28日(木) 5校時

第1学年ふじ組 男12名 女10名 計22名

指導者 工藤 敦子

- 1 単元名 くらべてよもう
教材名 じどう車くらべ (光村図書・上)

2 単元設定の理由

(1)児童について

入学して6ヶ月、ひらがなの学習を一通り行い、物語「大きなかぶ」も楽しく音読できるようになった。1年生が入学して初めてであった説明文は、1学期に学習した「いろいろなくちばし」である。鳥のくちばしの特徴を記したこの文章で、児童は説明されている事柄の大体を読み取ることが学ぶとともに、説明文の基本的なパターンである「問いかけの文」「答えの文」と、その文型について学んできた。

児童は、国語の授業はもとより、さまざまな場面で言語活動を体験している。友達や先生との会話を楽しんだり、朝学習や様々な時間に本を開いている児童も多く見られている。たくさんの本を読み、おもしろかったところを紹介している児童もいる。自分が体験したこと、発見したこと、知ったことなどを伝えたい、教えたいという気持ちも多く持っている。しかし、伝えたいことをうまく言葉にできなかつたり、恥ずかしくて大きな声で話せない児童もいる。また、自分が話したいばかりに友達の話最後まで聞けなかつたりということもあるため、日々の言語活動の中で指導している最中である。

本単元で学習する「自動車」についての興味関心は、男子はかなりある児童もいるが、女子児童においては、あまり興味を示していない。自動車の名前や形は知っていても、何のためにどのようなになっているかといった「しごと」と「つくり」の関係については、あまり考えていないのが実態である。

(2)教材について

第1・2学年の読むことにおける目標は「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。」である。本教材では、「易しい読み物に興味を持ち、読むこと。」「時間的な順序・事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。」「語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて考えながら声に出して読むこと。」について扱う。

本単元「じどう車くらべ」は、自動車の機能と構造とを関連付けて考えるように書かれている。まず、前書きの部分で児童の関心をいろいろな自動車に誘い、それぞれの自動車がどんな「しごと」をし、そのためにどんな「つくり」になっているのかを問いかけ、読者に疑問や着眼点が芽吹くようになっている。そして次の段落からは、三種類の自動車の説明が「しごと」とそのための「つくり」という二つの事柄の因果関係で述べる形をとっている。条件や理由を表す言葉を用いて表現することにより、いっそう機能と構造の関連を明確にさせることができる。また、身近な自動車という題材を通して、児童の興味・関心を生かし、読書活動に結びつけて調べたり表現したりする活動へも発展できる教材である。

本教材は、「ちがいをかんがえてよもう どうぶつの赤ちゃん」の特徴や違いなどを考えながら大体の内容を読み取る学習へとつながっていく。

(3) 指導にあたって

本教材は「話題・問題提示 問題に対する説明」を通して、「しごと」と「つくり」という二つの事柄の関係を考えながら内容の大体を読む力を育てることがねらいである。前書きの問いかけの文章によって、疑問や語句に着目した問題意識を持たせ、興味を持って読み進めることができるようにしていきたい。また、挿絵も使いながら知っている自動車について出し合い、自動車図鑑を作る計画を立て、興味・関心を持続させていきたい。読み取りでは、まず「しごと」について捉えさせ、そのためにどのような「つくり」になっているかを考えさせながら、事柄の順序に従って読み取らせていく。「そのために」という言葉の役割を考えさせながら、繰り返し読むことで、説明文の構成や言葉の使い方にも慣れさせるようにしたい。繰り返して本教材の文章構成(しごと そのために つくり)にふれ、考えを深めていくことで、説明文の文型が自然に身に付くようにしていきたい。また、挿絵も有効に使って、言葉と絵を結びつけながら読み取らせたり、大事な言葉をイメージ化させたり、前時の自動車と比べながら読むことによって、より確かに読み取ることができるようにする。絵や文章から読む過程で、新しく知ったことが増えていく楽しみを味わわせ、説明的文章を読み、物事を新しく知ったり、いろいろな本を読みたくなったりするような雰囲気を作り、読むことの楽しさを見つけられるように配慮したい。

また、友達の前では恥ずかしいと抵抗のある児童でも、徐々に声を出すことができるように役割読みなど繰り返し声を出すことを位置付けることで、声を出す機会を多くし、友達の前で発表することに慣れさせたい。そして、音読や伝えることの楽しさを体感できるようにしていきたい。

学習する文章が長くなり、漢字や片仮名も多く出てくるようになってきているので、音読や視写を正しく丁寧にするように気を付けさせていきたい。

(4) 研究仮説に関わって

仮説1に関わって、本単元のキーワードを「じどう車のひみつ」とする。このキーワードから、それぞれの自動車の「しごと」と「つくり」の関係を目を向けさせるようにしていく。一人読みでは、自動車の「しごと」と「つくり」が書いてある文にサイドラインを引いたり、視写したりして、大事なところに気付かせていく。また、それぞれの自動車の仕事を確認した後に、そのための作りを読み取らせ、挿絵と照応させる活動を位置付けることによって、自動車の「つくり」を視覚的にも理解できるようにし、自動車の「しごと」と「つくり」の関係について確かに読み取らせていく。

仮説2に関わっては、入門期の児童が自分で考えたこと、伝えたいことを安心して話すことができるような支援の場とする。相手に分かるように話したり、大事なことを落とさないように聞いたりさせる。また、自動車の「しごと」と「つくり」の関係について確かに読み取らせ、大事な言葉のイメージをつかませるために、言葉で詳しく説明したり、動作化をしたり、他の自動車とくらべたりする少人数での交流の場を設定し、読み取りが深まるようにする。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

自動車の仕事と作りの関係に興味を持って読み取ることができる。

〔関心・意欲・態度〕 いろいろな自動車の「しごと」や「つくり」に関心を持ち、本や図鑑を読むことができる。

〔読むこと〕 他の自動車と比べることによって、「しごと」と「つくり」の関係を読み取ることができる。

〔言語事項〕 かたかなで書く語を読んだり書いたりすることができる。

(2) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読むこと	言語についての 知識・理解・技能
・自動車の「しごと」や「つくり」の関係に興味を持ちながら、本や図鑑を読もうとしている。	・他の自動車と比べながら、「しごと」と「つくり」の関係を読み取っている。	・かたかなで書く語を読んだり書いたりしている。

5 本時の指導

(1) 本時の目標

トラックの「しごと」と「つくり」をバスや乗用車と比べながら、「にもつをはこぶ」「ひろいにだい」「タイヤがたくさん」の語句を関係づけて読み取ることができる。

(2) 研究仮説にかかわって

仮説1 キーワード「じどう車のひみつ」について読み取るために、トラックの「しごと」と「つくり」が書いてある文にサイドラインを引いたり、視写したり、絵と文を結びつける活動を位置づけることで、一人読みによる課題解決が図られるようにする。

仮説2 本時の交流の場を以下のように設定した。

目的...「荷物を運ぶしごと」のためのトラックの「つくり」を理解するため。

相手...学級の友達と(隣の人と)。

内容...トラックとバスの「しごと」と「つくり」を比べ、自慢話をする。

方法...対話

(3) 展 開

段階	学習内容(発問・児童の反応)	指導上の留意点	支援	評価
つかむ 5分	1 前時の想起 バスやじょうよう車は、どんな「しごと」をしていましたか。そのために、どんな「つくり」になっていましたか。	前の時間に学習したバスやじょうよう車の「しごと」と「つくり」について確認する。		
	2 学習課題の把握 これは、何という自動車ですか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">トラックのひみつをみつけよう。</div> ・学習課題を一斉に読む。	トラックの絵を提示する。		
	3 学習の見通し バスやじょうよう車では、「しごと」、そして、「つくり」の順で書いてありましたが、トラックも同じでしょうか。トラックの「しごと」と「つくり」を見つけながら読みましょう。 ・学習範囲を音読する。	トラックも同じ順序で書いてあるだろうと予想させ、読みの意欲を持たせる。「しごと」と「つくり」に気をつけながら音読させる。		
	4 読み取り トラックの「しごと」が書いてあるところをみつけましょう。 ・荷物を運ぶ仕事をしています。 線を引いたところを、隣の友達と確認しましょう。	「しごと」が書いてあるところにサイドラインを引かせ、視写させる。サイドラインを引けない児童には、写真と言葉を照らし合わせて考えさせる。「しごと」について書いてある文に、サイドラインが引けたか。		(ワークシート)
				(観察・挙手・発表)

<p>読み取る</p> <p>32分</p>	<p>トラックの「つくり」が書いてあるところをみつけましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ うんてんせきのほかは、ひろいにだいに なっています。 ・ タイヤがたくさんついています。 <p>線を引いたところを、隣の友達と確認しましょう。</p> <p>5 交流</p>	<p>拡大した教材文を準備し、一緒に確かめる。</p> <p>どんな荷物を運んでいるか考えさせる。「つくり」が書いてあるところにサイドラインを引かせ、視写させる。</p> <p>サイドラインを引けない児童には、写真と言葉を照らし合わせて考えさせる。「つくり」について書いてある文に、サイドラインが引けたか。</p> <p>(観察・挙手・発表)</p> <p>「そのために」の言葉に着目させながら、どんな作りになっているのかを考えさせることで、「そのために」が「しごと」と「つくり」をつなぐ役割をしていること の理解を深める。</p> <p>ワークシートを活用する。</p> <p>荷台の広さやタイヤの数について考えさせる。</p>
	<p>トラックとバスやじょうよう車の「しごと」と「つくり」を比べましょう。隣の友達と相談しましょう。</p> <p>「トラック」と「バス」になって、自慢話をしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぼくはひとをのせるしごとをしているんだよ。きみはどんなしごとをしているの。」 ・「わたしは、にもつをのせてはこぶしごとをしているの。」 ・「ぼくは、たくさんひとをのせるからせきがひろいんだよ。大きなきなまもたくさんあるんだ。すごいだろう。」 ・「わたしは、ひろいにだいがあるのよ。タイヤがたくさんあるから、おもいにもつをのせられるの。わたしだってすごいでしょう。」 	<p>似ているところと違うところをみつけさせる。</p> <p>みつけられない児童には、同じ言葉「はこぶ」「ひろい」「たくさん」に着目させる。</p> <p>「ぼくは～ができるんだ。～がついているからだよ。すごいだろう。」のように、相手の車とは違うところをみつけて話させる。</p> <p>どのように話したらよいか困っている児童には、「しごと」=できること、「つくり」=ついている物として捉えさせて、ペアの相手の話をまねさせながら話させるようにする。</p>
	<p>みんなに、自慢話をしましょう。</p>	<p>バスやじょうよう車と比べることによって、広い荷台やたくさんタイヤの必要性を確かめられるようにする。</p> <p>「しごと」と「つくり」を理解して、比べたり自慢話をしたりすることができたか。(観察・挙手・発表)</p>

ま と め る 8 分	6 学習のまとめ 今日の学習をまとめましょう。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> トラックは、にもつをはこぶしごとをするために、ひろいにだいになっています。タイヤがたくさんついています。 </div> 今日の学習を確かめながら音読しましょう。 自分のがんばりを振り返りましょう。 今日の学習で頑張っていた人を紹介してください。	内容の読み取りについて自己評価・相互評価させ、次時への意欲付けをはかる。 理由を付け足しながら紹介できるように支援する。
7 次時の予告 次の時間は、クレーン車の「しごと」と、そのための「つくり」について勉強します。	クレーン車について学習することを確認し、次時への見通しを持たせる。	

(4) 評価

評価目標	具体の評価規準		
	A 十分満足	B 概ね満足	C 努力を要する児童への手立て
絵や文から、トラックの「しごと」がわかり、そのためにどんな「つくり」になっているか読み取ることができる。	バスやじょうよう車と比べることによって、「にもつをはこぶ」「ひろいにだい」「タイヤがたくさん」という大事な言葉をしっかりとイメージしながら、それらの言葉を落とさずに、トラックの「しごと」とそのための「つくり」をまとめ、自慢話をしている。	「にもつをはこぶ」「ひろいにだい」「タイヤがたくさん」という大事な言葉を落とさずに、トラックの「しごと」とそのための「つくり」をまとめて、自慢話をしている。	「つくり」をみつけられない児童に対しては、挿絵を使い、「にだい」の場所や「タイヤ」の数を確認させる。 バスやじょうよう車と比べられない児童に対しては、同じ言葉「はこぶ」「ひろい」「たくさん」に目を向けて比べさせる。 自慢話ができない児童に対しては、「～ができるんだよ」「～がついているんだよ」という文型に当てはめて話させる。

(5) 板書計画

じまんの車けん

トラックのひみつをみつけよう。

じま

ひみつをはじまじまをこしています。

そのために

つくり

- ・ ひろいにだいになっています。
- ・ タイヤがたくさんついています。

絵

じまんなし

ぼくは、にもつをはじまじまをするために、ひろいにだいになっているんだよ。タイヤがたくさんついているんだよ。